

特別支援教育（知的障害）

高阪英徳 高橋 望 城 一樹 梶山雅司
小田原 舞 藤井朋子 西 勉 向井紋子

I はじめに

近年特別支援教育は、児童生徒等への教育にとどまらず、「障害の有無にかかわらず、一人ひとりが相互に人格と個性を尊重して支えあう共生社会の実現」の基礎となるものであり、現在及び将来の社会にとって重要な意味をもっているといわれている。また、将来の生活を考える上でライフキャリア（仕事をはじめ、家庭生活、地域社会とのかかわり、個人の活動《自己啓発・趣味》など、生活全般において生涯にわたり果たす役割や経験の積み重ねのこと）の観点も重要とされている。このような取り組みの一層の充実が求められている中で、東雲小学校・東雲中学校（：以下本校）の研究テーマでもある「グローバル社会をきりひらく資質・能力を培う教育の創造」は、本校特別支援教育においても重要な観点となるものと考えられる。そこで、グローバル社会をきりひらく資質・能力として本校が挙げた主体性、多様性、協働性を特別支援教育の視点から整理した(表1)。その結果、主体性、多様性、協働性のどれにも人とのかかわりが必要であることが明らかになった。

主体性	自分がどんなことが好きなのかを知ったり、活動に「やってみよう」という気持ちになって取り組んだりする	集団での活動を意識した自己肯定感を高める授業の中で育む
多様性	さまざまな考えの人がいることに気づいたり、友だちと自分の考えの違いに気づいたり、それらを受けとめたりする	自分の考えと他者の考え、まわりの状況を意識したり、理解したりするなど他者とのかかわりを通して育む
協働性	友だちと話し合ったり、活動を一緒にしたりする中で考えがより深まったり、新しい考え方や方法などに気づいたりする	コミュニケーションやかかわりを通して育む

表1 主体性、多様性、協働性の具体的な姿と図1との関連

これをふまえて本校特別支援学級では、将来の社会生活に主体的に参加していくことをめざし、その能力や資質を高めるためにキャリア教育の視点をもとに小学校から中学校へと段階的系統的な取り組みをそれぞれの学校や学級の実態をふまえて行っていくこととした。そこで「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を1人1人の将来における社会生活を見据えた力と捉え、「自分らしい進路を考える力」とした。進路を考える力とは小学校では学習や生活場面で身近な見通しやイメージをもつこと、中学校では卒業後や数年後の生活を見据えることとし、それを言動で表出することと考えた。そしてまわりの友だちや集団とかかわりながら、児童生徒がその子なりに考えや見通しをもって行動したり表現したり、将来の社会生活をイメージしたりすることができるよう取り組みを進めていくこ

とで「自分らしい進路を考える」ことができる考えた（図1）。これまでも、児童生徒の能力を能動的な形、外界や周りに働きかけることができる能力として育てたいという願いから、一方的な教え込みによる知識の習得だけではなく様々な言動として表出することをめざして取り組んできている。今年度は児童生徒の多様性、協働性、主体性を養うための方法の一つとしてかかわりやコミュニケーションを中心とする協働的問題解決を意識した取り組みを行っていく。児童生徒には自分の考えをもって選択したり決定したりすること、自分の考えを表現すること、他者の意見や話を聞く（見る）ことなど児童生徒がグローバル社会で生活していく上で大前提である相手や周りの集団とのコミュニケーションやかかわりが必然となる。この取り組みの結果、児童生徒一人一人が集団での活動を通して自己肯定感を高めつつ意欲的に活動に取り組むことで課題解決力や、より具体的あるいは長期的な先の見通しをもつことができるようになり、具体的な生活の場面で発揮できるようになることが期待できる。また特別支援学級において昨年度まで行ってきた自己肯定感を高める授業づくりを基盤として基本的自尊感情と社会的自尊感情のバランスをとりながら小学校段階では生活全般からの課題を設定し、中学校段階では将来の社会生活をめざした課題を柱とし取り組んでいく。9年間の段階的系統的な指導のあり方を明らかにしていきながら「自分らしい進路を考える力」を育成する授業づくりを行っていくこととした。

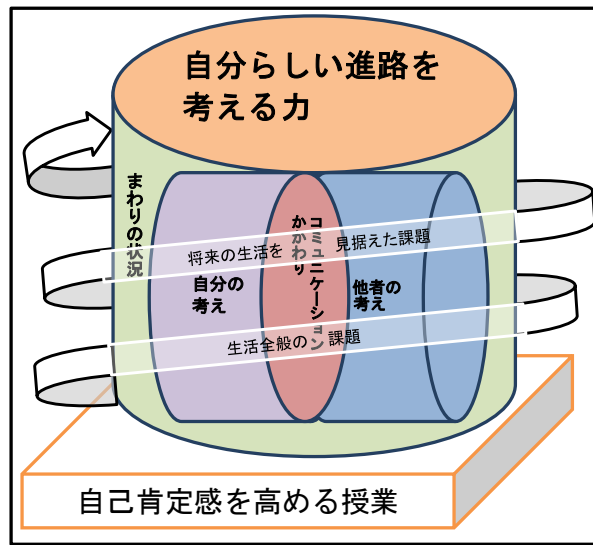


図1 自分らしい進路を考える力を育成する授業の構造図

また特別支援学級において昨年度まで行ってきた自己肯定感を高める授業づくりを基盤として基本的自尊感情と社会的自尊感情のバランスをとりながら小学校段階では生活全般からの課題を設定し、中学校段階では将来の社会生活をめざした課題を柱とし取り組んでいく。9年間の段階的系統的な指導のあり方を明らかにしていきながら「自分らしい進路を考える力」を育成する授業づくりを行っていくこととした。

II 本年度の研究計画

1 研究の目的

他者とのかかわりを通して「自分らしい進路を考える力」を育成する授業づくりの視点を見いだす。

2 研究の方法

「自分らしい進路を考える力」を育成する授業の構成図（図1）をもとに

- (1) 小学校においては生活単元学習をもとに単元構成や課題設定を見直し、中学校へつながる授業づくりの視点を見いだす。
- (2) 中学校においてはキャリアマネジメントをもとに小学校からの接続をふまえた授

業づくりの視点を見いだす。